

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

アラス族の口頭伝承としての諺について(2)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩淵, 聡文 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/605

アラス族の口頭伝承としての諺について (2)

岩淵 聡 文

Proverbs as Oral Tradition among the Alas of
Northern Sumatra (2)
Akifumi Iwabuchi

Abstract

Out of 147 Alas proverbs or sayings presented in this paper, 49 contain parallelism; 33 out of these 49 are categorized into proverbs without figurative expression. In terms of the compositional structure, the proverbs with parallelism are divided into six types. Some lexical pairs in the parallelism embody the dual symbolic classification based upon Alas dualistic cosmology. The dichotomy such as sea/land, upper stream/down stream, or human being/water buffalo seems to derive from this symbolism, but some pairs are irrelevant to it. Nearly a quarter of Alas proverbs are formed of agricultural vocabularies, 12 of pastoral words, 7 of aquatic topics, and only one of hunting subjects: their cognitive world represents the real living space, which is stratified by the order of livelihood; the agricultural activity supplemented by animal domestication and fishing is much more important than foraging in Alasland.

本論文は前編¹⁾に引き続いて、スマトラ島北部に居住しているアラス族の固有言語であるアラス語の諺を、未紹介の隠喩を含む諺、直喩を含む諺、比喩表現を含まない諺の順に整理した後に、諺に使用されている比喩や意味の解釈に基づいて、アラス族社会の認知領域に関する一試論を提出するものである。なお、前編と同様に、それぞれの諺の日本語訳を(訳:)で、日本で使われる類似の諺表現を(類:)で示す。

3-(1). 隠喩を含む諺

64. *Dē sikel njadi bayak, sebuah teluR ni beke lime.*

訳: 金持ちになりたければ、一つの卵を五つに分けろ。

類: 菜根をかみ得て百事なすべし。

卵とは単に食物だけではなく、物品全体の提喩である。身の回りにある物を節約しない限り金持ちにはなれないという教えであるが、贅沢の戒めとしても使用される諺である。

65. *Dē ndukuR mesaRe pepagi, alamat nemu njemuRken pagē.*

訳: 朝に斑鳩が鳴けば、粃を干すことが多分できるだろう。

類: 朝雨に傘いらぬ。

諺というよりも、むしろ俗信である。粃を干すという表現は、好天に恵まれて雨が降らないという状況の風喩表現である。アラス社会の農耕活動の手順においては、粃は米倉内に保管される前に、湿気除去のために天日に十分に干される。

66. *Mis ulang segeRe ni telen, mpagit ulang segeRe ni capakken.*

訳：甘さをすぐに飲み込むな、苦味をすぐに捨てるな。

類：口に甘きは腹に害。

ここでの甘さとは「世辞」、苦味とは「諫言」の隠喩である。世辞の危険性と諫言の必要性を説いている。

67. *Hadi bekas jembe ni kadi bekas buat.*

訳：倒れた場所がやる場所。

類：思い立ったが吉日。

この諺中の倒れるとは、恋愛関係あるいは男女関係に陥るという意味が強く、やるとは結婚するという意である。関係を結んだ男女は結婚しなければならないという教えである。

68. *Mēle metutuR made jumpe dekawē.*

訳：会話を恥ずかしがっていると、結婚相手には出会えない。

類：臆病者は機会を失す。

この諺中にある *dekawē* という単語は、元来は「姻族」という意味がある²⁾。姻族に出会えないということから、結婚相手に恵まれないという意となり、提喩を構成している。また、この諺は、結婚相手ばかりではなく友人一般が得られにくいという広い意味で使用される場合もある。

69. *Made megune nggeluh nigaRi, jilēnen matē metindih bangkē.*

訳：枷をつけられて生きている意味はなく、死体の山の中で息絶えた方がまし。

類：自由を失うは万事を失うなり。

枷をつけられて生きるとは、奴隷になるという意味の提喩である。伝統的なアラス社会では、アラス人の奴隷は存在せず、主としてバタク人の奴隷が購入、使用されていた³⁾。

3-(2). 直喩を含む諺

アラス語の直喩を含む諺には、その諺の文頭や文中に「～のようだ」を意味する *bagē* という単語や、「類・例」を意味する *ibaRat* という単語が使われている場合が多い。前者は *bagai*、後者は *ibarat* というマライ語の単語に相当する語である。一方、意味上に直喩が含まれている諺も知られている。

1. *Bagē natang lawē bagas bulung koRsap.*

訳：サトイモの葉上の水を膝にのせるようだ。

類：浮世の苦楽は壁一重。

サトイモの葉上の水は、一見つかむことが可能なようにも見える。しかしながら、手や膝にのせてみれば、水は流れ出してしまう。このように、万物は常に色々な状況下で変化するものなので、一様に信用することは難しいという意味となる。

2. *Bagē meRem lawē lalu.*

訳：流れていく水を捉えておくようだ。

類：水に描くが如し。

前出の諺と類似の表現である。いずれも、いたずらな骨折りをしている人や一定の人物のみを信用して、いつも仕事を任せるとような頑固者を揶揄する場合などに用いられる。

3. *Bagē nggiling lawē.*

訳：水を粉にするようだ。

類：労して功なし。

この直喩表現も、前二者に類似している。終わりのない仕事ということで、それが無駄な役に立たない仕事、骨折り損の仕事という意味になる。

4. *Bagē manuk pelisung.*

訳：脱穀機（写真1）の周囲のニワトリのようだ。

類：百川海に朝す。

脱穀した時の穀物のおこぼれを期待して、脱穀機⁴⁾の周囲には脱穀前からニワトリが集まってきている。利益が出る前にそれを察してやってくる人や、裕福な家に何かと理由をつけて出入りする人を風刺した比喻である。

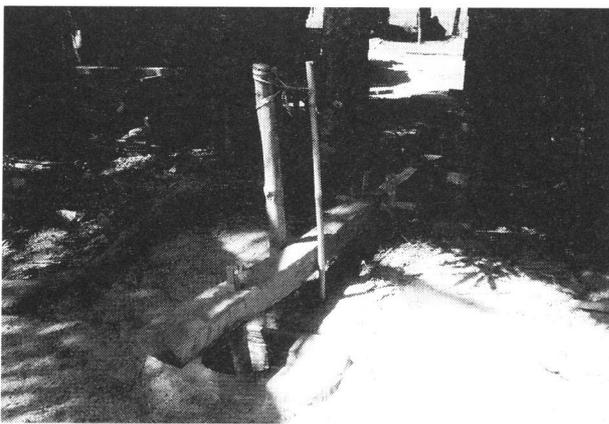


写真1 脱穀機

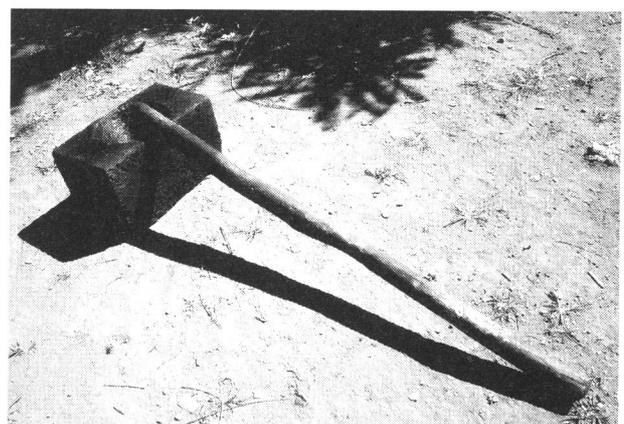


写真2 杵と臼

5. *Bagē pinggan mulih te be salangne.*

訳：皿を食器棚に戻すようだ。

類：合わせ物は離れ物。

皿とは「嫁」、食器棚とは「嫁の実家」を示唆している。離婚された嫁が実家に帰る様を婉曲に表現した直喩である。

6. *Bagē keRopok ni nduRu nduRu.*

訳：端においてある煎餅のようだ。

類：薄水を履むが如し。

端においてある煎餅の上に登ることが仮に可能であったとしても、その煎餅は直ぐに割れて、登った人は下に転落してしまう。目的や方向が確かではない計画やそれに乗ってしまう危険な人物を、このような比喩を使って表現する。

7. *Bagē sayuR cih.*

訳：カタツムリのようだ。

類：立つ鳥後を濁さず。

カタツムリは、葉の上をすべってやって来るが、去る時も同じである。転じて、来た時も去る時も変化のない代わり映えのない人が、この擲喩の対象となる。

8. *Bagē meRkes tanduk.*

訳：角を束ねるようだ。

類：水と油。

水牛やウシなどの角は頭の左右にあるので、これを一本化することは不可能である。このように、対立している二つの集団を一つにまとめるのは容易ではないという、一般的な感想が述べられている。

9. *Bagē kapuR Rut kuning.*

訳：石灰とウコンのようだ。

類：金蘭の契り。

前出の直喩とは反対の意味を持っている。友情が堅い友人同士や兄弟関係が、この表現により修辞されている。

10. *Bagē bunge abang abang, ndape ni hembusken angin ni hadi ndabuhne.*

訳：風が吹けば散らばってしまう船形の実をつける木の花のようだ。

類：落花枝に返らず、破鏡再び照らさず。

一度散らばってしまった物を再び支配することはできないという意味の直喩表現である。この船形の実をつける木の花は、アラス族に隣接して居住しているカロ・バタク族の固有言語であるカロ・バタク語においても直喩に使用されている。すなわち、*kelaling bagi bunga abang-abang* (訳：船形の実をつける木の花のように浮く)⁵⁾ という表現である。

11. *Bagē bungki pendok.*

訳：船体の短い丸木舟のようだ。

類：船頭多くして船山に上る。

船体の短い丸木舟に沢山の人が乗ると、安定悪くなり、ひどく揺れてしまう。転じて、他人の意見に簡単に影響されたり追従したりするならば、しっかりした結論は得られないという意味になる。

12. *Bagē lembu ndabuh ni paRik.*

訳：農業用水路に落ちたウシのようだ。

類：窮すれば濫す。

農業用水路に落ちたウシを助け出そうとしても、ウシは更に暴れるだけである。人間の中にも、援助の手は差し伸べられているにもかかわらず、それを理解することなしに窮地に追い込まれる者が多々見受けられる。

13. *Bagē badou mangani anakne.*

訳：その子供を食べる淡水魚のようだ。

類：欲に目がない。

マライ語でイカン・ガブス (*ikan gabus*) と呼ばれるこの淡水魚が、本当にその稚魚を共食いの対象とするのか否かは不明である。しかしながら、一般にはこうした俗信があり、強欲な者がこの魚に喩えられる。

14. *Dē medalan bagē Raje, pepangan bagē hambe.*

訳：土侯のように歩き、奴隷のように食べる。

類：お里が知れる。

外を歩いている姿からは、他人の育ちや出自を推測するのは困難であるが、食事を含めた家内での様子を観察すると、その色々な側面が見えてくる。更に、この比喩は、内実の伴わない見栄っ張りを揶揄する場合にも用いられる。

15. *IbaRat menci ndabuh be tepung.*

訳：穀物の粉の中に落ちたネズミの類。

類：棚から牡丹餅。

幸運はいつ訪れるか解らないという、万国共通の思想が述べられている。例えば、娘に縁談話が舞い込み、それまで困窮していた両親のところへ多額の婚資が花婿側からもたらされた場合などに、この表現が用いられる。

16. *IbaRat semut bengket tenggoli.*

訳：サトウキビの絞り汁に入ったアリの類。

類：夢に餅。

前出の直喩に類似した表現であるが、偶然の幸運という意味よりもむしろ、すばらしい境遇の中で贅沢の限りを尽している人間に対する比喩として用いられる。

17. *IbaRat kudun tanoh ni dape ndabuhne ni hadi pecahne.*

訳：落とせば割れてしまう土器の類。

類：剃刀の刃を渡る。

土器を落とせば簡単に割れてしまう。そのような危険な物を運ぶという行動は、危険を冒すという行為の比喩である。何かを実行する場合には、敢えて危険を覚悟せよという教えである。

18. *Rengak bagē Rimis jahēn tapinen.*

訳：下流の川岸の浅い所にいる小魚のように密集する。

類：烏合の衆。

多数の人間が自分勝手に行動しているという情景よりもむしろ、多数の人間が好き勝手に意見を言い合って、秩序のない会話が行われている状況において使用される比喩である。

19. *Lesap bagē udan ni keRsik.*

訳：雨のように砂利の中にしみ込む。

類：去る者は日々に疎し。

砂利の中に入った雨水は、程なく消えてしまう。頭に一度入った知識も、時間が経つにつれて忘れてしまうという現実を描写している。

20. *LuaR bengket bagē takal lēbou.*

訳：ウシの頭のように出たり入ったりする。

類：ああ言えばこう言う。

ウシ小屋の中のウシは、その頭を頻繁に小屋の外に出したり入れたりを繰り返す。口を開く度に異なった意見を主張する人を形容する場合に、この比喩表現が用いられる。

21. *Made megune bulet bagē pebulet batu anak.*

訳：トウガラシをすりつぶす丸石の丸さのように益のない丸さ。

類：馬鹿と鉄は使いよう。

トウガラシをすりつぶす丸石は、一見したところ何の役にも立たないようにも思われる。しかしながら、人間が使えば立派に役割を果たすことができる。転じて、一見したところ役立たずに見える人も、使いようによっては利用できるということになる。

22. *Metapel tapel bagē baje ni ipen.*

訳：歯の上のお歯黒のように積み重なる。

類：血は血だけ。

歯とは「家族」の比喩である。家族の関係は重層的につながりあっているもので、個々人が勝手にその関係を壊

したり、そこから逃げ出したりすることはできないのである。

23. *Mēnit bagē peleng kekuling.*

訳：木の皮からとった酸のようなレモネード。

類：縁なき衆生は度し難し。

酸味の強い飲物が頑固な人物の比喩となっている。このような人間は、他人の言を理解することを好まないという一般的な傾向を示唆している。

24. *Mesmes bagē koRsap ni lulus.*

訳：炙ったサトイモの葉のように萎える。

類：青菜に塩。

疲れているとか、病であるとかという理由をつけて、努力を怠っている人間の形容として用いられる。なお、マライ語にはサトイモの葉に関連した次のような諺もある。すなわち、*Air di daun keladi* (訳：サトイモの葉の中へ水、類：蛙の面に水)⁶⁾である。

25. *Moh bagē keRus ni tembuR.*

訳：水に浸したおこげのように柔らかい。

類：巽与の言。

飯炊釜にくっついたおこげは、水に浸してしばらくすれば柔らかくなる。転じて、頑固な他人を論ず際も、直截に苦言を呈するのではなく、婉曲な言い回しによってやんわりと行うべきだという教えが含まれている。

26. *Ngutkut bagē api ni bagas kedep.*

訳：籾殻の中の火のようにゆっくりと燃え広がる。

類：怨骨髄に入る。

籾殻に火をつけると、表面上は燃えているようにも見えないが、内部は既に激しく燻っている。表面上は怒りを感じさせないように装っている人も、心の中では激怒している場合がある。

27. *Nggeluh bagē tetueR.*

訳：イナゴのように生きる。

類：爪に火をともす。

アラス族の俗信によれば、イナゴは空気だけを吸って生きてると信じられている。人間がこのように生きるということは、ひどい貧乏生活を送るという状態を暗示している。

28. *PēnteR bagē ētep, pekok bagē keRambit.*

訳：吹矢のように真っ直ぐ、ナイフのように曲がっている。

類：五十歩百歩。

吹矢は直線により構成され、ナイフは曲線により構成されている一方、獲物や敵などを傷つけるという用途には相違がない。毒矢を使う吹矢の使用は、スマトラ島北部ではガヨ族やカロ・バタク族の間に知られていたが、伝統的なアラス族の社会では必ずしも一般的ではなかった。

29. *Sikelken cahaye nteRang, ulang mbiaR bagē ReRame.*

訳：明るい光を求めたければ、蝶のように決して怖じ気づくな。

類：思う念力岩をも通す。

蝶と臆病が結びついた理由は必ずしも明白ではないが、その美しい姿からの類推とも考えられる。いずれにせよ、勇気を持って行えば道は開かれるという、万国共通の教えが述べられている。

30. *Dape ketile made megetah, dape kin manusie simade mesalah.*

訳：ネバネバしていないパイアがないように、間違いを犯さない人間はいない。

類：弘法も筆の誤り。

この諺には直喩を直接に示す語は含まれてはいないが、意味上では直喩表現となっている。ネバネバしているパイアが、間違いを犯す人間の直喩である。

31. *Dē nemu kau tentuken batu mboRguh beRu, nemu kau bahani kunē ukuRmu.*

訳：石の性別を区別できるならば、自分が判断したように好きにやってもよい。

類：柄のない所に柄をけずる。

この諺も意味の上では直喩表現で、更に反語文ともなっている。実際には石に性別などは存在しないので、人間は自分勝手に行動してはいけないのである。

32. *Kau ingini bahagie, tapi kau kisas susah nggaRamse, ndigan lalu metunas.*

訳：困難を探すことに怠惰で幸福を求めることは、杵（写真2）から芽が出るのを望むようなもの。

類：しあわせは袖褻につかず。

杵から芽が出るということは有り得ないことなので、不可能の意味となる。幸福を求める場合にも、困難に打ち勝っていく気概がなければ、幸福の達成はおぼつかない。ここでも、意味上の直喩表現が使われている。

3-(3). 比喩表現を含まない諺

比喩表現を含まない諺には、諺ばかりではなく格言や教訓、戒めなどが幅広く含まれている。

1. *Akal ken pangkal, kekiRe ken belanje.*

訳：儲けのための知恵、出費のための計算。

類：入るを量りて出づるを制す。

資本を得るためには知識が必要であり、消費の際には計算して判断を下さなければならないという一般論が述べ

られている。

2. *Akal manuk nggaRami nakan, akal manusia made teRadak.*

訳：ニワトリの知恵は食物を探すだけ、人間の知恵は測ることができない。

類：知は生命の泉なり。

動物に比べて人間の能力というものは、広大無辺なものである。それに反して、ニワトリの関心事は、地面の上に落ちていた食物の捕食だけである。人間の知恵が無限の可能性を秘めているという思想が語られている。

3. *Babah keben nemu nitutup, babah jēme made tetutupi.*

訳：丸い米倉⁷⁾の入口は閉じることができるが、人間の口は閉じることができない。

類：人の口に戸は立てられぬ。

人々の噂話や悪口などは、止めさせようとしてもとてもできるものではないという万国共通の諺である。

4. *Benē baRang nemu nitulus, benē haRapen ndape nigaRami.*

訳：物を失ったら探すことができるが、希望を失ったら希望を探すことはできない。

類：絶望とは愚者の結論。

どのような状況に陥っても、希望だけは失ってはならないという普遍的教えである。マライ語には、アラス語の *haRapen* と同系統の *harap* という単語を使用した次のような諺もある。すなわち、*Harap ada percaya tidak* (訳：希望は存在するものだが、当てにはならないものだ)⁸⁾ である。

5. *Mebilangen mbuē made sepakat, jilēnen citok sepakat mendē.*

訳：多数のごちゃごちゃよりも、少数のきちんと整ったものの方がよい。

類：少数精鋭。

人間に対しても、物質に対しても使用される諺である。不良品を多数もらっても、少数の優良品にはかなわないという、万国共通の思想である。

6. *Dē enggou meRincim ulang meRancung.*

訳：既に平らになっているものに傷をつけるな。

類：蛇足。

余計な事をするなという意味もあるが、一度決定したことを簡単には変えてはならないという朝令暮改を戒める含意もある。

7. *Dē ngkabang tentu melindung, dē medalan tentu medene.*

訳：飛べは必ず影ができ、歩けば必ず跡がつく。

類：火のない所に煙は立たぬ。

行為があれば証拠が残るといふ、万国共通の一般論である。諺中の対句では、前部では鳥類が、後部では獣類が暗示されている。

8. *Dē sikel meteman mbuē, peRulahen cakap datas dunie.*

訳：友人を沢山作りたければ、世間に対する口の利き方に気をつけろ。

類：言は身の文。

会話における言葉使いや、敬意表現使用の重要性を説いた諺である。ちょっとした言葉の上での誤解などから友情関係にひびが入るといふことは、アラス社会でもよくあることである。

9. *Hangat ni api mesukat sipat, hangat ni atē nusahi diRi.*

訳：火の熱さというものは火の性質によるが、心の熱さというものは危険である。

類：短気は損気。

人間は怒ると自己を忘れ、自分自身に不利益をもたらす結果となりかねないので、怒気は出来る限り抑えなければならぬという教えである。

10. *Jēme si mbuē made ni kiRe kiRe, jēme mehangge ni bilang bilangi.*

訳：大衆は考えないが、尊敬される人は熟慮する。

類：思案の案の字が百貫する。

字句通りの諺である。尊敬される人物になるには熟慮を心がけなければならず、更に、熟慮してから行動に移さなければならないのである。

11. *Jilēnen nesal lebē, naRipade nesal pudi.*

訳：あとで後悔するよりも、する前に考えろ。

類：後悔先に立たず。

前者に類似した諺であるが、順序に従って行動せよという含意もある。こうした諺存在の背景には、アラス人自身による一般的な自民族評として、アラス人はとかく猪突盲進の傾向があるという指摘にも関連しているらしい。

12. *Jilēnen waRi sendah naRipade waRi pudi.*

訳：明日よりも今日。

類：明日の百より今日の五十。

明日の運命は誰にも解らないので、今日の物は今日中に得ておいた方がよいのである。転じて、出来ることは明日に延ばさずに、今日中にやってしまうべきであるという意味にも使われる。

13. *Kunē nigilakken igung babon babah.*

訳：口の上から鼻を除くことはできない。

類：論より証拠、藁人形。

不可能な事はできないということから、責任逃れはできないということになる。鼻を除くという表現はマライ語にも存在しているが、それは「血縁の悪口を言う」という意味である。すなわち、*Potong hidung rusak muka* (訳：血縁の悪口を言うことは、面目を失う)⁹⁾となる。

14. *Rupe made te kalih, peRasat nemu ni kalih.*

訳：顔は変えることができないが、性格は変えることができる。

類：習性と成る。

字句通りの諺であるが、顔の美醜よりも、性格の善悪の方が重要であるという教えが込められている。

15. *Rege ilmu made mesukat, Rege milik semase mbuē.*

訳：財産の価値は量に比例するが、学問の価値は計りがたい。

類：富は一生の宝、知は万代の宝。

人間は財を集めることに執心するよりも、学問に精進すべきであるという諺である。伝統的なアラス社会での学問とは、主としてイスラム教に関する宗教教義のそれを指していた。

16. *Rege pangkat mase kuase, Rege budi soh metungakat sudu.*

訳：地位の価値は権力がある限り、知恵の価値は頭を支えるまで。

類：学問は一生の宝。

前者に類似した諺である。権力がなくなれば地位も失われてしまうが、学問は生きている限りは失われることはないのである。

17. *KeRbou sade ujung ujung nemu ni pemakan jēme sebuah made te jage.*

訳：一頭の水牛は牧夫で事足りるが、一人の人間を監視することはできない。

類：盗人に倉の番。

人間を監視することの困難さを述べた諺である。反対に、他人を監視することに失敗した場合の言い訳としても使用される場合がある。

18. *Rugi Rial sipat biase, Rugi waktu made tegancihi.*

訳：銀貨の損は普通、時間の損は取り返しがつかない。

類：時は得難く失い易し。

時間の大切さ説いた普遍的な思想に基づく諺である。オランダ植民地時代以前にアラス地方に流通していた貨幣は、主としてスペインとイギリスの銀貨で、その後オランダの貨幣が登場した。

19. *KuRang sukaten memu nitambah, umuR kuRang made tebadali.*

訳：量が足りなければ足せばよいが、年齢が足りないのを増やすことはできない。

類：生まれながらの長老なし。

年齢は一年一年と段々に増えていくものなので、いきなり大人や長老になることは不可能という常識である。例外もあるが、一般に長老はアラス社会の中では重用され、尊敬の対象となっていた。

20. *Rupe mejilē made tepangan, peRasat mendē tetap megune.*

訳：きれいな顔では飯が食えないが、機敏な知恵は常に有益だ。

類：知識は力である。

顔よりも頭の中身の重要性を説いている。但し、伝統的なアラス社会でも、女性の美醜は結婚の条件に影響を及ぼしていたらしいという事実はある。

21. *Kunē pelotne dē belinen mahaRe naRipade muntunē.*

訳：収入より支出が多くては金持ちにはなれない。

類：利を思うより費を省け。

常識論が提示されているが、贅沢を戒めるという意味も含まれた諺である。現今のアラス社会とは異なり、伝統的なアラス社会においては極端な貧富の差は存在していなかった。

22. *Lebē mangan pudi cebuRih.*

訳：食べてから洗う。

類：盗人を捕らえて縄をなう。

ここでの洗う対象とは、手ではなく食物一般を指し示している。手順の悪い人を揶揄する場合などに用いられる表現である

23. *Lepas ni hambat, tading ni ulihi.*

訳：先行した者が追いかけて、遅れた者が戻る。

類：親の夜歩き息子の看経。

先に行った者が同行者を探しに更に先に行き、遅れた者が同行者を探しに戻るという姿から、物事や手順などが逆転している滑稽な状況を形容している。

24. *Lipat belou nemu ni bilangi, lipat ni Rananen peRlu ni antusi.*

訳：キンマの葉の折目は数えられるが、言葉の折目には理解が必要。

類：行間を読む。

言葉とは元来は含蓄を含んでいるので、その表面上の意味をとらえるだけでなく、真意も汲み取るべきであるという教えである。転じて、誤解する人が悪いという意味にもなる。

25. *Mbuē ni cukup cukupken, citok ni pepade.*

訳：充足感は大きく、欲望は少なく。

類：足ることを知れば福人。

万国共通の格言である。欲望を抑えなければならないという思想は、農耕社会であるアラス社会に広く認められていた富平準化のシステムと関連がある。

26. *Mekong ndie batu, kongen nengē tulē ngateken made.*

訳：石はかたいが、ないという事実はもっとかたい。

類：ない袖は振られぬ。

経済的な意味よりも、実際に証拠がなければ犯罪は成立しないという法律的な意味が強い諺である。不法行為は、証拠があって初めて成立するものであるという論理に基づいている¹⁰⁾。

27. *Misni gule sebaR kahaRung, misni bibiR made teRadak.*

訳：砂糖の甘さはのどに拡がるだけ、お世辞は測ることができない。

類：おだてともっこには乗りやすい。

際限のない世辞の悪影響を戒めた諺である。世辞を言う人間も悪いが、それを真に受ける人間も悪いという二種類の考え方が述べられている。

28. *Ndauh pē andung andung, ndohoR made kenkadē.*

訳：遠くにいれば欲しいが、近くにいれば何も望まない。

類：遠きは花の香、近きは糞の香。

欲という問題を離れても、遠くにいる人間は何かにつけて気をもむものである一方、近くにいる人間は特に気にもしないという一般論である。

29. *Nggeluh segi jep mesetempuhen, nggeluh ndekah ngelepasi diRi.*

訳：日々生きている時は協力し合えるが、長く生きて死ぬ時は一人。

類：人生朝露の如し。

死んであの世に行くのは一人であるという、宗教的な意味が強い諺である。反対に、生きている間は、他人と協力し合って生活せよという教えにもなっている。

30. *Pepadangen bungki ni tambatken, pepadangen akal ni pikiRi.*

訳：丸木舟をつなぐ場所、知恵を絞る場所。

類：せいては事を仕損ずる。

丸木舟をつなぐ前にはその場所を吟味しなければならず、行動する前には知恵を絞らなければならない。最終的な決断をする前に、物事を短兵急に行ってはならないという教えを持った諺である。

31. *PeRang mepangkal keRje mesukut.*

訳：戦争のための準備、仕事のための責任者。

類：大将のない戦はできぬ。

字句通りの意味の他に、計画を実行する場合には、計画と準備と責任者が必要であるという一般論が述べられている。

32. *Pudungi akal bagas mupakat, pudungi pakat nibagas janji.*

訳：知恵の結論は会議の中で、会議の結論は約束の中で。

類：広く会議を興し、万機公論に決すべし。

諺中の *mupakat* とは、当事者、当事者の系族の成員、村役人から構成される村落の会議である¹¹⁾。アラス社会では基本的には民主的な手続きが好まれ、約束を破った者に対しては村落からの追放などの厳しい処置も行われている。

33. *Salah nitegah benaR nipapah.*

訳：非は禁じ、是は支持せよ。

類：是々非々。

禁じることによって非を予防し、支持することによって是を増やすという願いが込められている。

34. *Salah be hukum taubat, salah be adat daulat.*

訳：イスラム法を犯せば悔いが残り、慣習法を犯せば不法状態が起こる。

類：国に入ってまず禁を問う。

アラス族は名目上のイスラム教徒に過ぎないが、イスラム法は知られている。しかしながら、イスラム法と伝統的な慣習法との間に齟齬が起こった場合には、慣習法が優先される。慣習法は絶対的なものなので、犯すことは許されないのである。

35. *Sibijak ken pebabah, sibayak ken pembantu.*

訳：話をするための博識、人助けのための富裕。

類：仁者に敵なし。

この諺の中心は後半部分で、金持ちは他人に施しをしなければならぬという期待が述べられている。

37. *Sabungen siRihme pusake datuk moyangte.*

訳：キンマの葉を砕いて色々と混ぜたものは祖先からの財産。

類：衣鉢を伝う。

キンマ噛みの伝統や習慣の重要性を述べている。しかしながら、キンマ噛みを含む古来の習慣は、現在のアラス族の若年層の間では必ずしも支持されなくなっているという事実もある。

38. *SewaRi selambaR benang, setahun selambaR uis.*

訳：一日一本の糸で、一年後には布一枚。

類：塵も積もれば山となる。

この諺は、*SewaRi semate cangkul, setahun selambaR jume* (訳：一日一鍬で、一年後には水田)、*SewaRi sepatah ilmu, setahun selambaR keRtas* (訳：一日一文の学問で、一年後には一枚の紙一杯)、*SewaRi sebuah tihang, setahun sebuah Rumah* (訳：一日一本の柱で、一年後には家一軒)と表現される場合もあるが、意味に相違は存在していない。

39. *Sedang sendah nemu kunē ukuR, sebaR ndigan nemu bēgende.*

訳：今のところは希望通りできるかもしれないが、いつまでそのように続くものか。

類：魚の釜中に遊ぶが如し。

贅沢な生活を送っている人に対して、際限のない栄華は続かないという警鐘をこの諺は乱打している。

40. *Sipat teRpuji, mehanggē, metahat nate, atē meRahē, aRih mejilē.*

訳：賞賛される性格とは、誇らしく、心から悩み、自分の心に自問し、よく話し合う性格。

類：益者三友。

アラス族の社会における好ましい人物の性格が列挙されている。これ以外にも、寛大な人物や勇気ある人物、学問のある人物などが、アラス社会では評価されている。

41. *Sipat teRcele, made mehanggē, made metahat nate, made meRatē meRahē, made pot aRih mejilē.*

訳：悪い性格とは、誇らしくなく、心から悩むことなく、自分の心に自問することなく、よく話し合うことも望まない性格。

類：損者三友。

アラス族の社会における好ましくない人物の性格が列挙されている、前者の反対の諺である。これ以外にも、粗暴な人物や吝嗇な人物、臆病な人物などが、アラス社会では評価されていない。

42. *Raje gelem timbangan, simetue caRi benaR pinteR, imem mēgang hukum, katip meRintah ugame.*

訳：土侯は広いバランスを保ち、長老は理解力をもって真実を追求し、導師はイスラム法を処理し、説教師は宗教を規制する。

類：仁者は憂えず、知者は惑わず、勇者は恐れず。

諺中の土侯という語は、「村落長 (*pengulu*)」という単語に置き換えられる場合もある。村役人の役目と心構を列挙した格言である¹²⁾。

4. 考察

フォックス (J. J. Fox) によれば、オーストロネシア語族系の諸言語において使われている、その性格が高尚かつ高度に隠喩的であると考えられる儀礼言語においては、文化の基礎的な隠喩構造が、対句法 (*parallelism*) の中に埋め込まれているという¹³⁾。アラス語の諺は必ずしも儀礼言語ではないが、ここでも対句法は広範囲に使

用されており、韻をふんだ対句もかなり観察できる。本論文で取り上げたアラス語の147の諺の内、対句法が見られるのは49の諺である。その49の諺の内、33の諺は比喩表現を含まない諺として分類されたものである。換言すれば、アラス語の比喩表現を含まない諺は、主として対句法により構成されているとみなすことができるのである。対句法が認められるアラス語の諺は、その構造により下記の6の類型に分類できる。

類型1：主部が同一で、述部が異なる諺

Secawan ngkolu secawan ngkahē. (a+b a+c)

類型2：主部は異なっているが、述部が同一の諺

NdaRat Ras ndaRat, belowē Ras belowē. (a+b+a c+b+c)

類型3：主部がほぼ同一で、述部は異なっている諺

Hangat ni api mesukat sipat, hangat ni atē nusahi diRi. (a+b+c a'+d+e)

類型4：主部は異なっているが、述部はほぼ同一の諺

Rupe made te kalih, peRasat nemu ni kalih. (a+b+c d+e+c')

類型5：述部と主部は異なっているが、前置詞などに同一の単語が使用されている諺

Dē ngkabang tentu melindungi, dē medalan tentu medene. (a+b+c+d a+e+c+f)

類型6：全く異なっている主部と述部により構成されている諺

Salah nitegah benaR nipapah. (a+b c+d)

フォース (G. Forth) は、東部インドネシアのスンバ(Sumba)島における儀礼言語の二元的構造が、当該地に見られる二元的世界観に基づく二元的象徴分類構造と密接な関係があると論じている¹⁴⁾。既に前編において指摘した通り¹⁵⁾、アラス族の諺中にもその二元的な認知領域が反映されていると考えられるものも存在している。そこに認められる二分構造は、例えば、海／陸・上流／下流・人間／水牛などである。しかしながら、象徴分類とは必ずしも関連がないと思われるような対句表現も頻繁に観察できる。対句法だけではなく、アラス語の諺一般に使用されている単語を分析してみると、147のアラス語の諺の内の約四分の一に農耕活動や農作物と結びついた単語が登場する。一方、動物性タンパク質の摂取方法として、アラス社会においては農耕に次いで重要な位置を占めている牧畜に関連した諺は12、淡水魚労もしくはその水界文化と関連した諺は7が認められる。これに反して、明確に狩猟道具名を含んだ諺は1つだけであり、熱帯雨林地帯における狩猟活動がアラス族の間においては、必ずしも一般的ではなかった事実によるものと考えられる。類似の傾向は、比喩表現に使用されている語彙の解釈によっても確かめられる。隠喩と直喩を含む諺に見出せる動物語彙を分析してみても、家畜として分類できる水牛や牛などが頻繁に登場しているのに対して、鳥類を除く野生動物として名前が上がるものは象と虎のみである。アラス地方に多数存在している蛇類に関する語彙も、諺中には全く使用されていない。ここでは、狡猾な属性を持つ生物は蛇ではなく猫であり、獰猛という意味で比喩に用いられるのは鱈ではなく淡水魚となっている¹⁶⁾。アラス語の諺から把握することができるその認知領域は、二元的な象徴世界というよりもむしろ、その中心部に位置する生業活動である農耕を外延部の牧畜と漁労が圍繞するという、実際の生活空間概念を反映した構造を例示したものを構成していると考えられるのである。

注

1) 岩淵聡文, 「アラス族の口頭伝承としての諺について(1)」, 『東京商船大学研究報告(人文科学)』50号, 1999, pp. 1-16.

2) Iwabuchi, A., *The People of the Alas Valley: A Study of an Ethnic Group of Northern*

- Sumatra, Oxford: Clarendon Press, 1994, p. 212.
- 3) Iwabuchi, pp. 34-35.
 - 4) アラス族の伝統的脱穀機には、足で動かす脱穀機 (*lisung jingki*)、水車を利用した脱穀機 (*lisung gening*)、杵 (*lalu*) を使って脱穀する臼 (*lisung tangan*) の三種類が知られていた。
 - 5) Joustra, M., *Karo-Bataksch woordenboek*, Leiden: E. J. Brill, 1907, p. 1; Neumann, J. H., *Karo-Bataks - Nederlands woordenboek*, Medan: Varekamp, 1951, p. 9.
 - 6) Wilkinson, R. J., *A Malay-English Dictionary (Romanised)*, London: Macmillan, 1959 (1st edn., 1932), p. 532.
 - 7) Iwabuchi, A., p. 47. 参照。
 - 8) Wilkinson, p. 397.
 - 9) Wilkinson, p. 406.
 - 10) Snouck Hurgronje, C., *Het Gajōland en zije bewoners*, Batavia: Landsdrukkerij, 1903, p. 108. 参照。
 - 11) Iwabuchi, p. 61.
 - 12) Kreemer, J., *Atjèh: Algemeen samenvattend overzicht van land en volk van Atjèh en onderhoorigheden*, vol. 2, Leiden: E. J. Brill, 1923, p. 274. なお、この個所においてクレーメル (J. Kreemer) は、格言に相当するアラス語として *petenah* と *oemanat* という単語を紹介しているが、いずれも「命令・遺言」という意の語である。
 - 13) Fox, J. J., "Introduction" in *To Speak in Pairs: Essays on the Ritual Languages of Eastern Indonesia*, Cambridge Studies in Oral and Literate Culture 15, ed. J. J. Fox, Cambridge: Cambridge University Press, 1988, pp. 1-12.
 - 14) Forth, G., "Fashioned Speech, Full Communication: Aspects of Eastern Sumbanese Ritual Language" in *To Speak in Pairs*, p. 130.
 - 15) 岩淵聡文, p. 13.
 - 16) 蛇も鱔もマライ語の比喩表現の中では頻出する生物である。Wilkinson, pp. 156, 1262. 参照。